

1, 対戦方法

2人対2人(ダブルス)

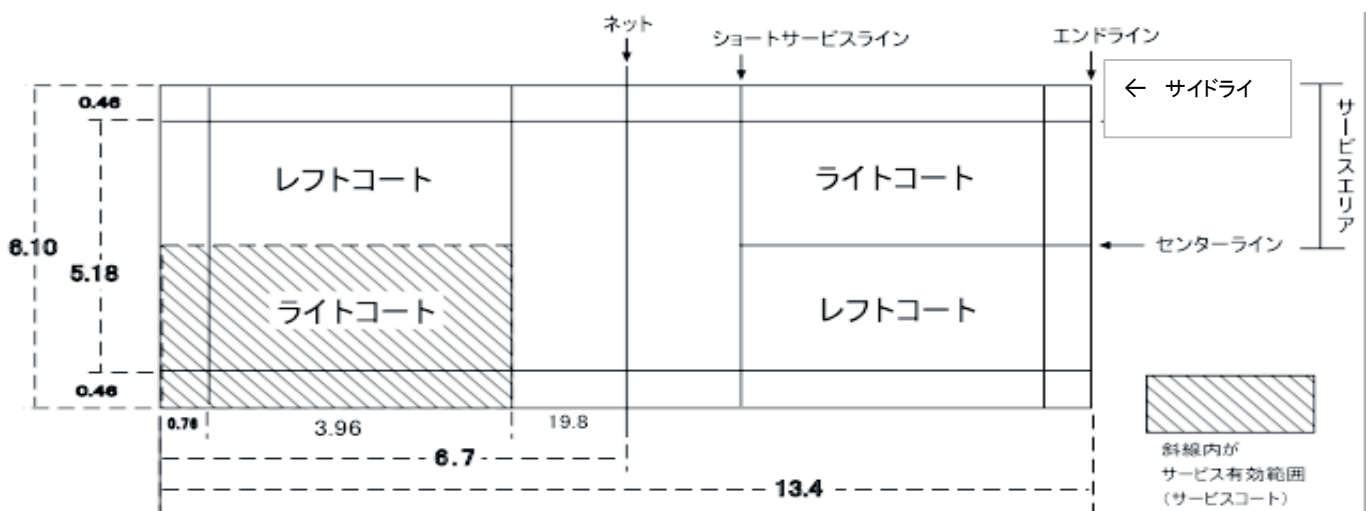
2, 用具

ラケット ショートテニス専用ラケット(長さフリー)
 ボール ショートテニス用スポンジボール(ミズノ製またはダンロップ製)
 ポスト バトミントン用または専用ポスト
 ネット バトミントン用または専用ネット

3, コート

- ①コートの大きさおよび名称は図の通りとする。
- ②ネットの高さは90cmとする。

コート規格(単位M) [バトミントンコート使用]



4, 審判の構成

試合は主審1名、副審1名で運営することを原則とする。

5, 競技方法

①試合の方法

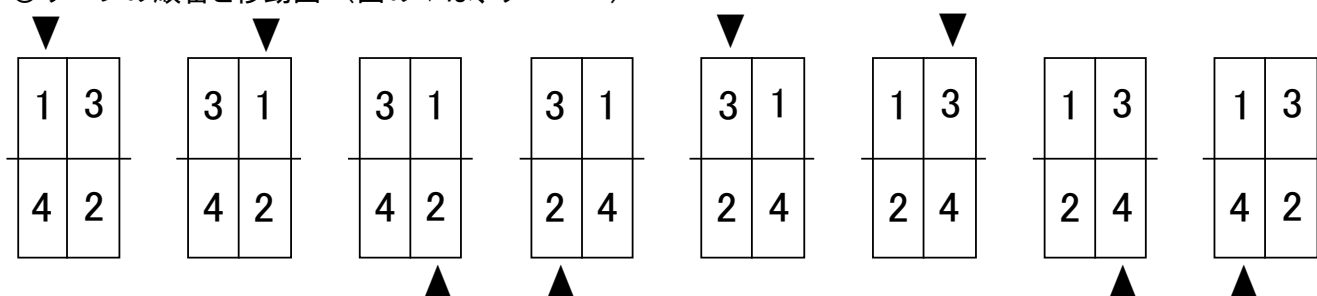
サーバーとなったプレーヤーは、ライトコートのエンドライン後方から、ラケットでボールを打って直接相手側のサービスコートに入れる。レシーブ側は、サービスコートに入ったボールをワンバウンドの後、相手側コートに打ち返す。その後は、ワンバウンドの後かノーバウンドのボールを相手側コートに打ち返してプレーを続ける。自陣のコートに入ったボールを受け損じたり相手側のコートに返せない時は相手側に得点を与える。

②試合の細則

- 1) ゲームを始める前にネットに集合してお互いに握手とジャンケンを行い、勝者がサービスかレシーブ、又はコートのいずれかを選択します。
- 2) 1ゲームの勝敗は、11点先取した方を勝ちとし、3セットマッチを原則として行い2セットを先取したチームを勝ちとする。ただし、3セット目はどちらかが、6点になった時点でコートチェンジをする。
- 3) ジュースは設けない。
- 4) コートは1セット終了毎に、交替する。(3セット目は、ジャンケンにより選択する)

- 5) インボール、アウトボールは、落下したところで判定し、ラインに触れたものは全て有効とする。
- 6) 相手側から打たれたボール(サービスを除く)はワンバウンドの後、又はノーバウンドでネットを越えるかネットポストの外側をまわり相手側コートに打ち返さねばならない。
- 7) プレー中ボールがネットに触れてもこれらを越えて相手側コートに入った時は有効とする。
- 8) 打ったボールが直接、天井、照明器具、得点板、審判等、相手側コート内の地面以外の物に当たった時は打った側の失点となる。
- 9) プレー中の主な反則はフットフォルト、ネットタッチ、オーバーネット、ドリブルとするが、細部についてはテニスのルールに準じて行う。
- 10) サービスは、ジャンケンでサーブ権を取った方のチームのネットに向かって右側(ライトコート)の競技者が、エンドライン後方から始め、次のポイントは左側(レフトコート)から行い、対角線上の相手方サービスコート内にボールを打ち込む。相手チームは、必ず交互にサービスを受ける。
- 11) サービスは、トスをしたボールをエンドライン後方のサービスエリア内から直接相手側のサービスコートに入れる。
- 12) サービスは、2回とし2回目が失敗すると相手チームの得点となる。ネットインの場合にはやり直す。
- 13) サービスは、2ポイント毎に相手チームと交代する。
- 14) サービスは、両足ともサービスエリア(センターラインからサイドラインまで)を出てはいけない。
- 15) 試合中、オーバーネットは例え髪の毛が出ても反則となり相手の得点になる。

◎サーブの順番と移動図 (図の▼は、サーバー)



6. 試合の進行

1) 試合前の挨拶

- ① ネットに集合して、お互い握手と礼、審判に礼をして開始する。
- ② ジャンケンをして、勝った方がサーブ・レシーブ又はコートを選択する。

2) 試合前の練習

お互いに練習することを目的とし、3本又は1分間とする。

7. 試合の開始・終了と審判のコール

1) 試合開始は、主審の「プレー」とコールで開始する。

2) サーブを失敗した時は、「フォールト」とコール。連続してサーブを失敗した時は、「ダブルフォールト」とコールする。

3) サーブがネットに当たって、サービスコート内に入った時は「ネットイン」とコールし、やり直しを指示する。

- 4) 試合中にライン外に出た時は、主審は「アウト」とコールする。主審と副審との判定が異なった場合は協議し、主審が決定する。
- 5) 試合中に反則があった場合は、すべて「アウト」とコールする。
- 6) 主審は、1セット終了時と3セット目の6点先取時に「チェンジコート」とコールする。
- 7) 主審は、ゲーム終了時に「ゲームオーバー」とコールし、プレイヤーはネットに集合し、握手をして終わる。

※プレイヤーはボールのイン・アウト等を自分で判断せずに、審判のコールに従って試合を進行し、きわどいボールはすべて打ち返しておくこと。